

令和 8 年度 学校経営計画

1 学校教育目標

社会的・職業的自立を目指し、自他を尊重し協調しながら、自己実現と社会に貢献できる心身ともに健康な生徒を育成する。

＜校訓＞ 自立 挑戦 協調

2 学校の特徴

- ・ 本校は、軽度知的障害のある生徒を教育の対象とし、卒業後の一般企業等への就労など、社会的・職業的自立に向けた支援を重視する、高等部のみを置く特別支援学校である。
- ・ 学校の規模は、1 学年当たり、3 学級 24 名を定員とし、就労に必要な知識・技能・態度等の基礎を習得するための実習を行う生産・サービス科を設置している。

3 学校の現状と課題

昨年度、11 期生 22 名が卒業し、これまでに 193 名の卒業生を社会に送り出した。11 期生全員が希望する一般企業への就労を果たしている。今年度は 18 名が入学し、全校生徒は 8 学級 51 名となった。

今年度も引き続き「入学希望者を増やすための取組の充実を図ること」、「企業就労を目指す環境を整え、就労生活を継続する力を高めること」、中でも「自己理解を深め自己管理意識を高めること」を使命として取り組んでいく。授業だけでなく、校外における体験等を通して生徒の自己理解力を高めるとともに、生徒一人一人が社会で自分らしく、得意とする能力を活かして生き生きと活躍できるよう、生徒の主体的な学びを支える有効な手段となる ICT や外部の専門家を積極的に活用し質の高い教育の実践に取り組んでいく必要がある。また、情報発信や交流等を通して地域や保護者との連携をさらに深めることにより、より信頼される学校を目指すとともに、就労支援のセンター的機能を高められるよう、就労支援体制の強化を図っていくことが課題である。

(1) 就労できる力を育てる

- ・ 職業教育に重点を置いた教育活動の推進と一人一人の特性に応じた就労支援の充実。
- ・ 実習（作業学習）や就業体験の系統的な実施及び地域人材や事業所等と連携した専門的な指導（プロフェッショナル講座）の充実。
- ・ 就労に向けた積極的な職場開拓及び職場適応・定着のための職業選択支援の充実。

(2) 自己理解を深め、生活の質を高める力を育てる

- ・ 就労生活の継続に向けて自律し、規則正しい基本的生活習慣を定着させるための支援の充実。
- ・ 青年期にふさわしい情操を培い、自己理解を深める支援を充実させるとともに、社会人になることへの自覚と責任感を育み、良好な人間関係を保って主体的に心豊かな社会生活を送る力を養うための指導の充実。
- ・ 体力の向上及び自らの健康管理や健康的な生活を送ることができるための指導の充実。

(3) 地域社会に貢献する

- ・ 地域資源や人材の積極的活用、交流や地域での実習（作業学習）やボランティア活動などを通しての理解啓発及び社会貢献。
- ・ 県東部の高等学校における障害のある生徒の指導や就労に関する支援の推進。

(4) 安全・安心な教育環境を整備する

- ・ 安全教育の計画的・組織的な実施と事故防止対策の拡充。
- ・ 危機管理や防災意識を高めるための校内体制づくり。

4 学校教育計画

項 目		目標・方針及び計画	
1	学習活動	目 標	・生徒が主体的・対話的に学習を進めることができるように、授業展開、ICTの効果的な利活用、支援方法等を工夫・改善し、より効果的な指導につなげる。
		計 画	・学校課題の研究を通して、社会的・職業的自立を目指し、教科等横断的な視点に立った授業の在り方について教育課程の見直しに取り組む。 ・各授業において、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善の取り組みを進める。 ・ICT機器の使いやすい環境を整え、各教科等で一人一台端末の活用場面を再考するなどしてICTの効果的な利活用を推進する。 ・教師のICT活用能力を高め、ICTの特性・強みを生かした生徒のより深い学びを促す方策について、外部講師による研修会を実施する。
		目 標	・卒業後の就労及び社会人としての社会生活を見据え、身に付けておくべき力を整理し、自己の課題を理解・克服し、成長を目指すために、必要に応じた支援内容の精選と充実を図る。
		計 画	・自己の課題を意識し、目標をもって作業学習に取り組み、さらに成長を視覚的に実感できるよう、「到達度チェック」を作業学習で有効に活用する。明らかになった課題や課題の克服のために立てた目標を作業学習だけでなく、日々の授業や学級での活動の中で実践する。 ・各作業班において各分野の専門家から学ぶ「プロフェッショナル講座」を実施し、技術の習得だけでなく、働く人の思いや姿勢に触れる機会をもつ。
2	学校生活	目 標	・卒業後、社会人としての自覚や責任感を持ち、健全な自立生活を送るための基盤となる社会常識を身に付けることができるように、学校生活全体を通して社会生活のルールや情報モラルに関する学習の充実を図る。
		計 画	・学年や分掌、各教科等が連携し、社会規範や人との付き合い方、ICTの適切な活用等について学習できるようにし、計画的に外部講師等による講習会を実施する。 ・生徒集会等で、生徒同士が意見を出し合い、学校ネットルールについて考えたり、自分たちの行動について振り返ったりすることで、課題に向き合えるようにする。 ・情報モラル指導や正しく安全なICT利用に関する教職員研修を実施する。
		目 標	・将来の自立した生活を見据え、生活習慣や心身の状態を振り返る機会を設定し、課題を主体的に考え改善しようとする自己管理の意識と態度を育て、基本的生活習慣の確立を図る。
		計 画	・健康チェックシートを活用して、生徒が生活習慣や心身の状態を振り返る機会を設け、健康への意識を高めるとともに、自身に必要な項目に気付く、追加する活動を設定することにより、自身の健康課題をどのように改善していくかを考える力を育てる。また、取組の内容を家庭と共有し連携した支援を行う。 ・就労後の生活を具体的にイメージし、健康管理の大切さを実感することができるよう、卒業生の体験を聞く機会を設ける。
		目 標	・防災、防犯の訓練を通して、生徒が安全・安心に学校生活を送ることができるようにするとともに、危機管理マニュアルに基づき、学校の安全体制の充実を図る。
		計 画	・関係機関の専門的な視点からの指導を生かし、学校の安全体制を充実させ、実際の学校生活における場面を想定した防災、防犯の訓練を実施する。 ・落ち着いて安全・迅速な緊急時対応ができるよう、緊急時の状況把握、安全な避難や対応方法を教職員間で共通理解し、HR等で生徒に意識付ける。
		目 標	・一人一人のニーズに応じて、学校生活や家庭生活、社会生活における支援体制を整え、支援の充実を図る。
		計 画	・行動観察や面談等による生徒の情報を教職員間で共有し、必要に応じてケース会議等を開き、支援体制を整備する。 ・適時に質の高い支援が行えるよう、家庭との連携を密にし、地域、関係機関等との連携・協力の充実を図る。

3	進路支援 重点1 ⑨	目 標	・生徒が主体的・意欲的に就業体験に取り組み、適切な進路選択につながるよう、事前・事後学習の充実を図る。
		計 画	・ <u>進路決定までの流れや巡回指導の在り方などについて進路研修会を行い、教職員間で共通理解を図り、学校全体で進路指導に当たる。</u> ・ <u>生徒一人一人の希望や特性等に応じた進路選択ができるように進路指導委員会を計画的に実施し、ニーズや適性に応じた進路指導となるよう検討する。</u> ・事前・事後学習の時間を年間行事予定に位置付け、各教科等と横断的に指導を進めるようにする。 ・VR教材の活用や体験先での打合せ等を通して、生徒が具体的なイメージをもって就業体験に臨めるようにする。 ・体験後、成果や課題等を生徒・保護者・全教職員で情報共有し、学校生活全般や家庭生活で生かすことができるようにする。
		目 標	・生徒・保護者の就労に向けての理解を促進するために、情報提供の場の設定や情報の発信を行い、就労への意識啓発を図る。
		計 画	・進路だよりやPTA進路学習会等で、障害者雇用率や最低賃金をはじめとする障害者雇用の現状や社会的・職業的自立に必要な情報を生徒・保護者に提供する。 ・就業体験報告会や卒業生のお話を聴く「先輩に学ぶ学習会」など、進路支援に関する行事への保護者の積極的な参加を促し、生徒と情報を共有できるようにする。
		目 標	・企業向けオープンスクールを実施し、好事例となる取組等の研修を通して、企業への一般就労を目指す生徒の特性の理解を促進し、就業体験の受け入れや雇用促進を図る。
		計 画	・特別支援学校就労応援団とやま登録企業等に対し、企業向けオープンスクールを実施し、企業担当者への本校の作業学習や教科学習の公開、企業間の情報交換及び好事例の発表を通して、本校の取組への理解促進や就労支援体制の充実を図る。
4	特別活動	目 標	・生徒自身がよりよい学校づくりや地域交流について考え、実践することで集団や社会の一員としての意識と自信を高め、主体的に社会参加、社会貢献する態度を育む。
		計 画	・「目指せ！ワンダフル☆School」プロジェクトを生徒主体で推進できるよう環境づくりに努め、生徒会活動や学校行事、地域行事等において自主的に、または仲間と共同して実践しようとする態度が、生徒に育つようにする。 ・地域行事への参加や地域の方々と触れ合う機会等を通して地域交流を深め、積極的に社会参加、貢献する態度を、生徒に育む。 ・学校行事等の情報を発信するとともに、地域との交流の機会を設け、積極的に地域に開かれた学校としての推進を図る。
		目 標	・生徒が卒業後、社会人として主体性をもち、周囲と協働して、自身の生活を豊かで楽しみのあるものにしていくための基盤となる態度を育む。
		計 画	・ <u>生徒が「自分たちで、やりたいことを実現できた」と実感をもてるよう、みんなでやってみたい行事、学びたい内容などについて具体的に話し合い、活動を計画して、実現できるように時間の確保、助言者の配置等、環境設定に努める。</u> ・一人一人が自分の意見をもち、主体的に取り組めるように、学年単位等、小グループで取り組むようにする。 ・事後の振り返りを基に取組について報告・情報交換会を行うことで、「実現できた実感」や「今後、挑戦したいこと」等を言語化して経験を整理することができるようにする。
5	その他 (教育相談)	目 標	・中学生自身が適切な進路選択を行えるよう、中学校等の生徒や保護者、教員に情報提供を行い、理解啓発及び教育相談の充実を図る。
		計 画	・卒業生やその保護者のインタビューを公開するなど、本校で学ぶ意義や成果をより具体的に伝えるように工夫し、県東部の中学校訪問やHP等を通して理解啓発を図る。 ・対象者のニーズに合うようにオープンスクール等の内容を工夫する。 ・学校見学会等で個別相談を実施したり、随時、相談や体験を受け入れたりし適切な学びの場の選択につなげることができるよう情報提供をする。

		目 標	・県東部の高等学校における障害のある生徒の指導や就労に関する相談・支援を行い、就労支援のセンター校としての機能を高める。
		計 画	・高等学校に在籍する障害のある生徒の指導や就労に関する情報提供を行うとともに、高等学校の現状や困難を聞き取ることで状況を把握し、よりよい支援につなげるようにする。
	その他 (P T A 活動)	目 標	・ P T A と生徒が学校や家庭生活における様々な課題や困難について共に考える場をもち、互いに理解を深めることで、生徒・保護者・学校がチームとなり、よりよい学校・家庭生活を送れるようにする。
		計 画	・ P T A 役員と生徒との懇談会を開催し、学校での取組を知ったり、諸問題について意見交換を行ったりする機会をもち、生徒・保護者・学校のよりよい関係づくりを図る。 ・懇談会の内容について、HPやP T A だよりで全保護者に発信する。

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和8年度 富山高等支援学校アクションプラン — 1 —		
重点項目	進路支援	
重点課題	生徒が主体的・意欲的に就業体験に取り組み、適切な進路選択ができるような進路指導の充実	
現 状	本校は卒業後の社会自立と一般企業への就職を目指す学校であり、進路指導は教育活動の中でも大切な役割を担っている。生徒の就業体験や企業見学などを中心とした進路学習、保護者のP T A 企業見学や進路学習会、教員の研修会など、進路指導に関して学習、研修を行っている。生徒・保護者には進路希望調査を行い、その結果を踏まえつつ個別進路相談等を実施することで、個々の希望、適性に沿った進路選択・決定が行えるようにしているが、管理職、進路指導主事、学年担当者等が進路指導委員会にて就職先となる事業所の検討を適切に進めるために、さらに定期的な情報交換が必要と考えられる。 また、教員向けの進路研修会については、現状では「巡回指導マニュアル」の読み合わせを4月当初に行っているのみである。巡回指導での確認事項や検討内容は、重要な研修内容であるが、進路指導担当者との作業学習における生徒の実態の共有など、進路研修会で取り上げるべき内容が他にもあると考えられる。生徒の進路選択により資する進路指導を実施するために、進路研修会の内容の検討・充実を図り、定期的に実施していくことが必要である。	
達成目標	① 進路指導委員会の実施	② 教員向けの進路指導研修会の実施
	5回以上	5回以上
方 策	・個々の生徒の希望や特性に合った進路選択ができるように就業体験先や進路先について情報交換を行い、その後の進路指導に役立てたり、進路指導に関する事項について話し合ったりして共通理解を図り、学校全体で進路指導に当たるための進路指導委員会を計画的に実施する。 ・教員向けの進路研修会を定期的に実施し、進路決定までの流れや巡回指導の在り方、障害者雇用率や最低賃金などの社会情勢と障害者雇用の現状についての情報、作業学習等で作成している「夢かなえま表」から得られる生徒の実態についての情報等の共有と活用についてなど進路指導の理解を深める研修を行う。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和8年度 富山県立富山高等支援学校アクションプラン ―2―

重点項目	特別活動	
重点課題	卒業後、社会人として主体性をもち、周囲と協働して、自身の生活を豊かで楽しみのあるものにしていくための基盤となる態度の育成	
現 状	・「目指せ！ワンダフル☆School」プロジェクトや生徒集会等での話し合いを通して、生徒が主体的によりよい学校づくりや学校でのルールについて考えたり、話し合ったりすることができるようになってきている。 ・ルールやモラル、基本的生活習慣などについて主体的に考え、守ったり整えたりすることを学んでいるが、卒業後の社会人としての生活を考えたときに、周囲と協働して、自身の生活を豊かで楽しみのあるものにしていくとする態度を育てることが十分ではないと考える。 ・生徒自身の「やってみたい行事、学びたい内容」などを自分たちで実現することで、生徒の主体的な態度を育てるような取組みが必要である。	
達成目標	① 生徒のやってみたい行事、学びたい内容などの把握	② 生徒のやってみたい行事、学びたい内容などの実施
	・やってみたい行事、学びたい内容などに関する生徒へのアンケートの実施 年2回	・やってみたい行事、学びたい内容などに関する生徒へのアンケートで挙がってきた事柄の実施 年2回
方 策	・生徒が「自分たちで、やりたいことを実現できた」と実感をもてるよう、みんなでやってみたい行事、学びたい内容などについて具体的に話し合い、活動を計画して、実現できるように時間の確保、助言者の配置等、環境設定に努める。 ・一人一人が自分の意見をもち、主体的に取り組めるように、学年単位等、小グループで取り組むようにする。 ・事後の振り返りを基に取組について報告・情報交換会を行うことで、「実現できた実感」や「今後、挑戦したいこと」等を言語化して経験を整理することができるようにする。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)